

第2次射水市環境基本計画の進捗状況

1 望ましい環境像

本計画における目標とする環境像については、「未来につなげる豊かな自然協働で創る環境のまち いみず」とし、市民一人ひとりの行動により、本市の豊かな自然を守り・育み、未来につなげていくことを目指します。

2 方向性及び経過

(1) 健康で安全な生活環境の確保

①基本目標

日常生活や事業活動に伴い発生する環境負荷の低減及び自然界の健全な物質循環の確保に努めていきます。人の健康や生活環境に被害を及ぼすおそれのある大気、水、土壌等の汚染を未然に防止し、安全な生活環境の確保を図り、未来に受け継ぎます。

②数値目標及び経過

	基準値 (H28)	H29	H30	目標値 (H39)
大気環境基準達成率(%)	100	100	100	100
水質環境基準達成率(%)	100	82.6	86.7	100
騒音環境基準達成率(%)	100	100	100	100
水洗化・生活雑排水処理率(%)	92.5	93.3	93.7	93.2
ごみの不法投棄件数(件)	48	22	124	33以下
海岸漂着ごみ清掃活動数(件)	10	10	13	増加

大気、騒音については、環境基準を達成している。水質については、環境基準を達成していない。(平成30年度射水市環境概要参照)

海岸漂着ごみ清掃活動については、昨年は台風や大雨の発生が多かったこともあるが、基本的には県内の沿岸部や内陸部で発生したものが大部分を占めるため、関係機関等と協力し発生抑制対策を進めていく必要がある。

ゴミの不法投棄件数について

ごみの不法投棄については、依然として山間部や河川等の人目の付きにくい場所で大型のごみが不法投棄されている。対策として、注意看板の設置のほか、地域と関係機関との監視やパトロール強化している。

平成30年度において、実績値が大幅に増加した。その原因として、前年度までは大型の家具や家電リサイクル品等のみ報告していたが、より正確に実情を把握するため、空き缶等の比較的小さな不法投棄物の件数も含めたためである。

(2) 人と自然環境の共生

①基本目標

野生生物の生息又は生育環境への配慮により豊かな生態系を保持するとともに、希少生物を積極的に保護します。また、海・河川等の水辺、農地、里山等の自然を適正に保全し、人と自然環境の共生を図ります。

②数値目標及び経過

	基準値 (H28)	H29	H30	目標値 (H39)
森づくり年間延べ参加人数(人)	869	957	957	1,600以上
里山等での保全・交流団体数(団体)	5	5	5	8
希少動植物の保全活動数(件)	0	0	0	2

市民参加による森づくり年間延べ参加人数は基準年から増加傾向にある。里山等での保全・交流団体数や希少動植物の保全活動数については、基準値からの増減はみられない。

(3) うるおいとやすらぎのある快適環境の創出

①基本目標

公園・緑地の整備と緑の創出、まちなみ景観の形成、環境美化等の取組を積極的に進め、うるおいとやすらぎのある快適環境の創出を図っていきます。

②数値目標及び経過

	基準値 (H28)	H29	H30	目標値 (H39)
身近な公園や歩道、公共施設における花や緑に満足している市民の割合(%)	—	—	68.5	75
地域花壇数(面)	259	255	252	262
市民と行政との協働による都市公園管理数(箇所)	94	94	95	99
保存樹木数(本)	2(1件)	2(1件)	2(1件)	増加

身近な公園や歩道、公共施設における花や緑に満足している市民の割合について、射水市環境とくらしフェア会場でアンケート調査を行ったところ、68.5%(n=130)から「満足している」という回答が得られた。

花壇数は減少、都市公園管理数、保存樹木数については、昨年と比べ増減はありません。

(4) 循環型社会の構築

①基本目標

資源・エネルギーの効率的な使用、廃棄物の発生抑制と再使用及び資源化を推進し、環境への負荷が少ない循環型社会の構築を図ります。

②数値目標及び経過

		基準値 (H28)	H29	H30	目標値 (H39)
一人1日当たりのごみの排出	(g)	1,058	1,031	1,056	1,006
一人1日当たりのごみの最終処分量	(g)	50	47	97	42
リサイクル率	(%)	26.7	25	22.9	36
食品ロス削減の啓発協力店舗の数	(店舗)	54	同左	同左	70
バイオマス産業でのたい肥製造量	(t)	3,600	5,442	3,239	4,300
バイオマス産業での廃食用油利活用量	(ℓ)	5万	5万	5.1万	10万

一人1日当たりごみの最終処分量について、平成30年度よりクリーンピア射水(焼却施設)でごみのスラグ化を廃止したため、埋立てごみが前年度以前に比べ増加した。

食品ロス削減啓発について、平成30年度は市民全体への呼びかけのため、広報同時配布物として、戸別にチラシを配布した。

今後も市民、事業者、行政が一体となってごみ減量化及び再資源化に取り組む必要がある。

(5) 地球環境の保全

①基本目標

省エネルギーへの取組及び新エネルギーの導入等、日常生活や事業活動において環境への影響に配慮した取組を推進することで持続可能な社会を構築し、地球環境の保全を図ります。

②数値目標及び経過

	基準値 (H28)	H29	H30	目標値 (H39)
何らかの地球温暖化対策を実践している市民の割合（％）	—	—	91.5	90
公共交通（万葉線）年間利用者数（人）	115.6万	119.5万	119.2万	125万
公共交通（コミバス）年間利用者数（人）	38.9万	40.2万	40.4万	45万
電気自動車充電ステーション設置数（基）	13	13	11	15
温暖化対策に関する環境講座の実施回数・参加数（人）	2回60人	2回37人	2回37人	2回60人
外灯のLED切り替え率（％）	62	64.4	67	80

何らかの地球温暖化対策を実施している市民の割合について、射水市環境とくらしフェア会場でアンケート調査を行ったところ、91.5% (n=130) の人が何らかの対策を行っているという回答が得られた。

ノーマイカーの推進等により公共交通機関の利用者数も増加傾向にある。

電気自動車充電ステーション設置数は、設置店舗の閉店等に伴い減少。

(6) 市民協働による環境の保全及び創造

①基本目標

環境問題に対して理解を深めながら市民、事業者、市等が主体となって環境配慮、創造型の暮らし方や事業活動に変革していくことが重要です。そのための学習・啓発や実践の機会充実を図っていくとともに、各主体の協働・連携に基づく推進体制の構築を図っていきます。

②数値目標及び経過

	基準値 (H28)	H29	実績 (H30)	目標値 (H39)
いみず環境チャレンジ10事業の実施数 (校)	15	15	15	15
エコアクション21認証取得事業者数	14	14	15	増加
アダプトプログラム登録数※ (団体)	60	60	61	70
協働事業の活動数 (事業)	4	4	4	7
環境関連活動団体数 (団体)	7	7	8	9

エコアクション21及びアダプトプログラム登録数、環境関連活動団体数では基準年より若干の増加となった。

環境チャレンジ10実施校数及び協働事業の活動数は前年と同様であった。

※アダプトプログラム参加数について、平成30年度末までに

41団体、11企業、9個人の登録があり、延べ人数は1,827名になっている。